事業報告書

【将来性を有する競技者の発掘及び育成活動助成】

助成事業細目	タレント発掘・一貫指導育成事業
助成事業者名	公益財団法人全日本柔道連盟
事業名	平成30年度全国少年柔道競技者育成事業
事業実施期間	平成　30　年　4　月　1　日　～　平成　31　年　3　月　31　日 （延べ　365　日間）
事業の成果	合宿等を通した他地域の選手たち指導者たちとの交流は、とりわけ精神面において好影響を与えたように思われる。短期間とはいえ普段とまったく違う環境に身を置くことで、個人差はあれ一様に逞しさを増すと感じる。また、技術面においても実績、指導経験共に豊富な指導者による講習は、子どもたちの基本技能の向上のみならず地域の指導者にとっても、一つひとつの技術の基本動作を柱とした指導の共通理解につながる効果が得られている。昨年度より開始した体力測定結果を今後の身体能力の向上、そして全国の少年柔道育成の指針として活用してゆく。
事業に対する評価	前年度と同様に中央、地方を問わず指導者はもとより選手たちの父母からも継続が熱望されるなど非常に高い評価を得ている事業である。とくに中学生においては地区によって実力、選手層に差が見られるものの、本事業から育った選手たちの将来の活躍が非常に楽しみである。また、各地区から推薦された選手と指導者を全日本ジュニア強化合宿に参加させることは、とくに意識向上の面で相乗効果を生んでいる。

事業計画及び実績	年度当初計画		実績	
延べ参加者数	2,472	人	1,884	人
活動日数	44	日	43	日
延べ指導者数	447	人	458	人
各年代の代表選手輩出数	40	人	62	人

事業の実施方法		
第三者への委任（事務委任等）の有無	☐ 有　☑ 無	※第三者への委任（事務委任等）が「有」の場合、以下に記入するとともに、委任先の収支決算書を提出すること
委任先の組織名称		
委任の内容		

実施した事業の内容

【事業の詳細】
①本連盟にて区分している下記10地区にて小中学生の発掘、育成合宿を実施した。
1. 北海道：北海道立体育センター（小学生）指導者16名/選手63名
（中学生）指導者17名/選手53名
2. 東北：岩木山総合公園体育館　指導者36名/選手90名
3. 関東：埼玉県立武道館　指導者43名/選手83名
4. 東京：講道館他　（小学生）3回　指導者36名/選手221名
（中学生）5回　指導者45名/選手172名
5. 北信越：上田自然運動公園総合体育館　指導者34名/選手75名
6. 東海：　愛知県武道館　（小学生）　指導者41名/選手95名
豊田市立武道館（中学生）指導者37名/選手96名
7. 近畿：白浜町立総合体育館　指導者42名/選手95名
8. 中国：豪雨被害により開催中止
9. 四国：高知県立武道館　指導者25名/選手60名
10. 九州：阿蘇青少年交流の家（小学生）指導者34名/選手190名
久留米アリーナ（中学生）指導者34名/選手107名
*体力測定スタッフを9地区　各2名　計18名を派遣
②3/16　全柔連強化スタッフ及び10地区担当者で総括会議を実施　参加者:24名＋事務局2名

情報公開		
事業の実施状況及び実施結果並びに助成金の使途に関する情報の公開	情報の公開方法（複数選択可）	☑ HPで公開 ☑ 広報誌・会報誌等で公開 ☐ 事務所等に備え、自由に閲覧できる環境を整備 ☑ 情報開示請求があった場合に開示 ☐ その他　（　　）※具体的な公開手段を記載してください。 ※上記いずれかの公開が必要です。
	公表した内容（複数選択可）	☑ 事業の実施状況（助成金の交付を受けている旨を記載し、事業の進捗、途中経過を公開） ☑ 事業の実施結果（助成金の交付を受けた旨を記載し、事業の完了報告を公開） ☐ 助成金の使途に関する情報（助成金額（交付決定額）及び何に使用したのかを公開） ※上記いずれかの公表が必要です。

事業実施後に参加者等に対する満足度調査を行ったか	☑ 行った　☐ 行わなかった	実施方法	参加選手、保護者へのアンケートを実施
備考			